

# 初年次教育の現状と課題

—『知へのステップ』を使って  
いかに教育効果を上げるか—



2011.02.18(金)



関西国際大学 上村和美  
(「学習技術」コーディネーター)

1

## ■ 発表のながれ ■

0. Introduction
1. 『知へのステップ』誕生まで
2. 関西国際大学の「学習技術」について
3. 「学習技術」の教材について
  - ・ ワークシート、教授資料の紹介
4. 「学習技術」の授業と評価について
  - ・ 授業の実際—第4回「要約から感想・意見を書く」より—
  - ・ 最終課題と評価
  - ・ 再履修について
5. まとめ
  - ・ 受講生たちの感想
  - ・ 学習技術の意義
  - ・ まとめにかえて

2

# 関西国際大学はこんなところです

- 平成10年(1998)年に兵庫県三木市に開学しました。
- 前身は関西女学院短期大学です。
- 教育学部(教育福祉学科・英語教育学科)と人間科学部(人間心理学科・ビジネス行動学科)で構成されています。
- 平成21年4月からは、尼崎キャンパスも開設し、ツインキャンパスとなりました。



# 「学習技術」が話題になっています

をいどのまに大学での「学習技術を校り込む」「最終的な目標に導くか」「重点を置く」「導入教育」「初年次教育」は「全入時代」の大きな課題だ。多摩大は「学びへの動機付けを狙うが、一歩ひき方を考える試みも広がりつつある。」「レポートと感想文の連

**欲 植 え 付 け**

生の必修授業に

いは向けて進もう」。教員は、日常生活の時間管理法が学生生活で問われる。関西国際大(兵庫県三木市)で行われている「学習技術」というタイトルの1年生の必修授業。今月15日のテーマは「アカデミック・ライティングの基本スキル(技術)」だった。「話

をいどのまに大学での「学習技術を校り込む」「最終的な目標に導くか」「重点を置く」「導入教育」「初年次教育」は「全入時代」の大きな課題だ。多摩大は「学びへの動機付けを狙うが、一歩ひき方を考える試みも広がりつつある。」「レポートと感想文の連

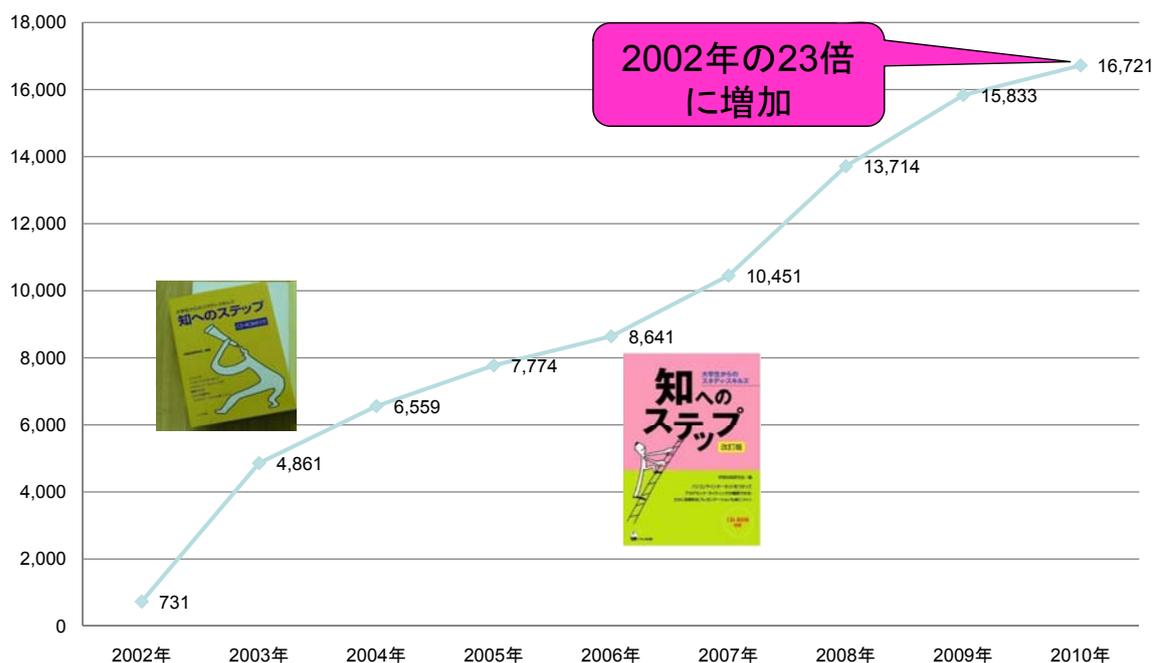
多くの大学で認識されつつある」と上村助教は実感している。

関西国際大は1998年、学生から学習、生活面での個別相談を受ける「学習支援センター」を開設。翌年、相談が多かったテーマを1回の講義形式で希望者に指導する「ショートプログラム」を始めた。このうちの「学習技術」を01年度から必修授業にする際に開発された教材が「知へのステップ」だ。

上村助教は「『勉強の仕方まで教えないといけないのか』という声もあるが、学力や学習意欲が多様な学生を伸ばしていくためには欠かせない」と話す。

全入時代、大学は導入教育の成否を通して教育力の真価を問われるのかも知れない。

## 「知へのステップ」採用冊数の推移



## 導入教育と初年次教育

- First Year Experienceの日本語訳。アメリカでFYEは、Freshman Seminarより広義に用いられる。
- 導入教育：専門へのイントロダクション。リメディアル教育も含む。
- 初年次教育：高校（と他大学）からの円滑な移行を図り、学習および人格的な成長に向けて大学での学問的・社会的な諸経験を“成功”させるべく、主に大学新生を対象に総合的につくられた教育プログラム（川嶋2006）。

『知へのステップ』誕生まで 1

## ■『知へのステップ』誕生までの変遷

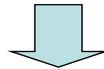
1999年4～5月、11月・・・学習支援センタープログラム

- 「講義の攻略法ー要点はこうしてつかめ！ー」
- 「ワープロを使った効率的なレポート作成術」
- 「わかりやすい文を書くにはー文章作成法ー」



2000年4月～2001年3月・・・高等教育研究所プロジェクト

- 「導入教育のための教材開発研究」



2001年4月～2003年3月・・・科研費プロジェクト

- 「大学入学時におけるスタディ・スキルの教材開発と運用に関する研究」

7

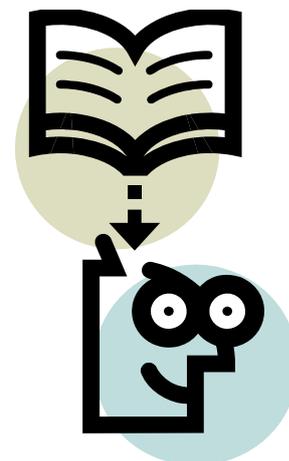
『知へのステップ』誕生まで 2

## ■「学習技術」で学ぶ具体的な スタディ・スキルズ

大学生にとっての学習に必要な技術

コンテンツ

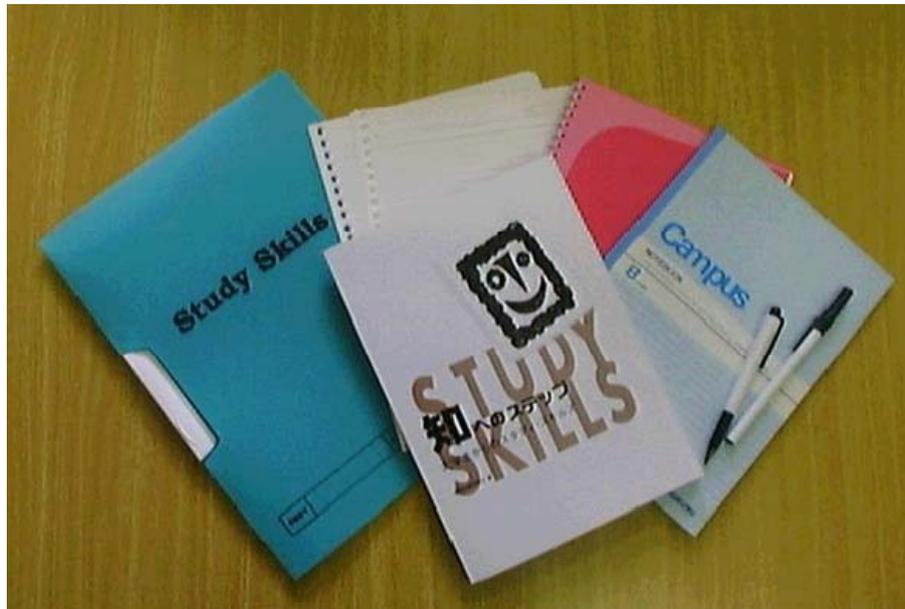
- ノート・テイキング
- リーディング
- 情報収集の方法
- レポートの書き方
- プレゼンテーション



8

『知へのステップ』誕生まで 3

## ■「学習技術」のために開発した オリジナルテキスト



2001年 高等教育研究所プロジェクト成果物 9

『知へのステップ』誕生まで 4

## ■「知へのステップ」の構成

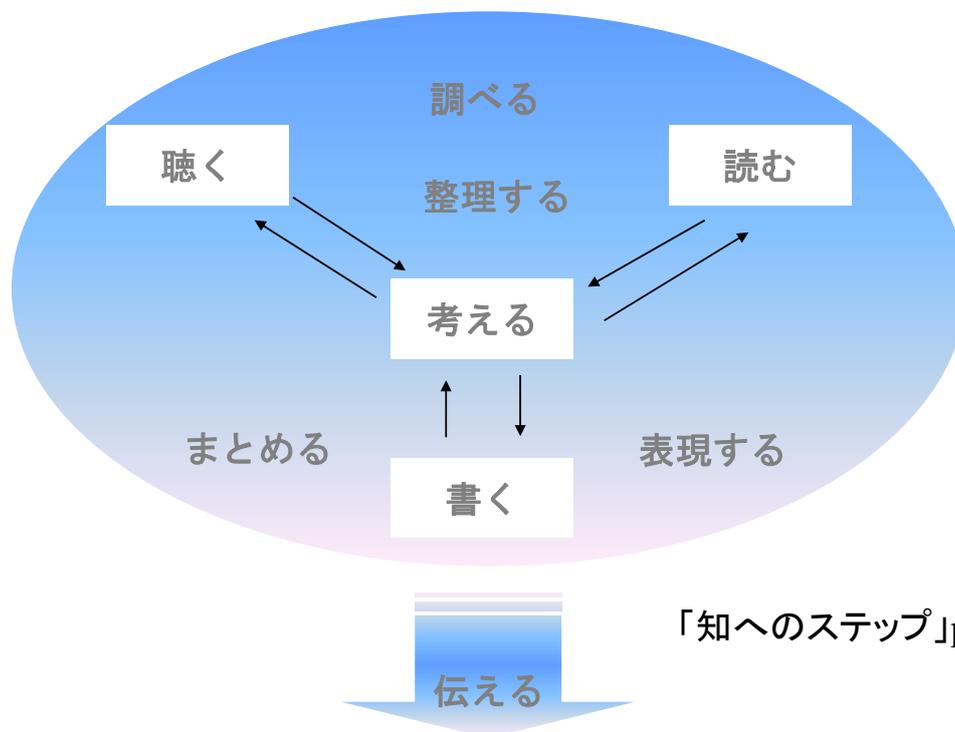


- 第1章 スタディ・スキルズとは
- 第2章 ノート・テイキング
- 第3章 リーディングの基本スキル
- 第4章 より深いリーディングのために
- 第5章 大学図書館における情報収集
- 第6章 インターネットによる情報収集
- 第7章 情報の整理
- 第8章 アカデミック・ライティングの基本スキル
- 第9章 効果的なアカデミック・ライティングのために
- 第10章 パソコンによるライティング・スキル
- 第11章 プレゼンテーションの基本スキル
- 第12章 わかりやすいプレゼンテーションのために

2002年 科研費研究成果物

10

## ■「学習技術」で学ぶスキル



## ■「学習技術」年間実施状況

### 導入学期

学期	春学期 (4～7月)	夏学期 (8月～9月)	秋学期 (10月～1月)	冬学期 (2月～3月)
対象	春入学の 日本人学生	再履修 留学生	春入学の 留学生	再履修
クラス数	人間科学部 8クラス 人間学部 6クラス	両学部で 1クラス	両学部に 各1クラス	両学部で 1クラス

他に  
・キャリアプランニング  
・コンピューターリテラシー演習

# ■平成22年度・春学期の実施環境

- 半期15回(ガイダンス1回+授業14回)
- 受講者は約450名  
(2学部・4学科・15クラス・留学生クラスもあり)
- 科目担当者は14名
- 学生個人が所有するノートパソコンも活用
- 複数教員で担当するが、統一教材や「教授資料」、補助教材の活用等によりクラス差は生じない。
- 毎回ワークシートを実践し、提出。翌週には添削して返却される。

# ■「学習技術」シラバス

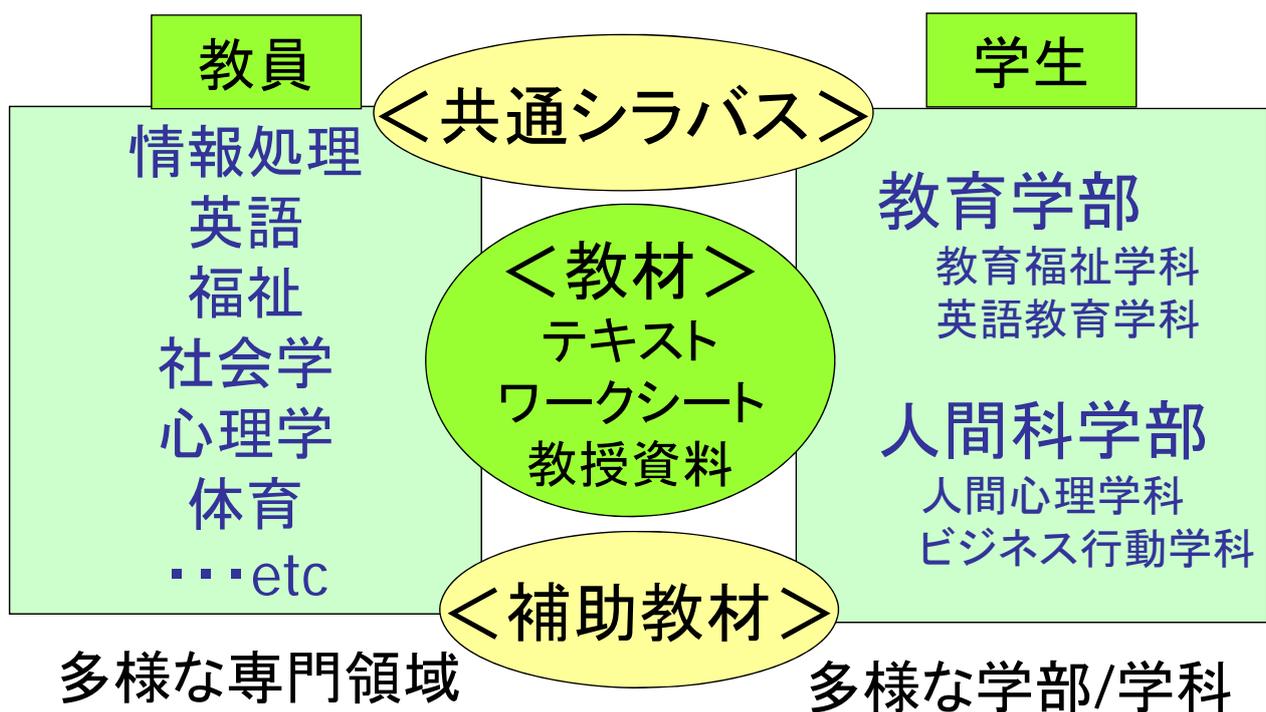
※内容は全学部(人間科学部・教育学部)共通

# ■ 授業風景 (2002年度)



「学習技術」の教材について 1

## ■ 等質なクラス運営のために





授業展開例			
◆活用パターン □ 既習/フィードバック-既習-既習/フィードバック			
	学習内容	学習活動	指導上の留意点・資料
準備 (5)			
復習 (3)	・前時のフィードバック	・前時に既習したワークシート【No.3】を復習する。  ・ワークシートを見ながら、以下の表について、読解からプリントし、前時のポイントを確認する。 (1) マーキングの方法 (2) 読んだ内容をノートにまとめる。	・ワークシート【No.3】  ・読みかたが不明な箇所があるが、時間を限定して確認をおこなうと、無駄目になるだろう。
導入 (10)	・文章を一度読んで、「キーワード」を見つける。	・ワークシート【No.4】を配発し、読解(1)を行う。  ・魚名を指して、抜き出したキーワードを発表させる。  ・キーワードごとに、次のような点について学生に感想を求め、スキーマを活性化させる。 (1) 「高次化」ってどういうことだろう？ (2) 「高次化を理解する」ってどういうことだろう？また、そのためにはどうすればよいだろう？	・ワークシート【No.4】(1) (2) ・2～3分程度でキーワードを抜き出させる。  ・必要に応じて、キーワードと「読みかた」を比較しながらの学生にも羅列しながら発表してもらおう。  ・文章を所感的に読解(2)の活動であるので、書かれた文章の方向にこだわらず、自由に意見を言わせたい。
展開 (20)			

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・資料	
展開 (45)	・もう一度文章を読んで、マーキングをする。	・ワークシートの読解(2)を行う。 ・3分程度で黙読させ、大切だと感じる箇所(基本的に文)にマーキングをさせる。  ・ワークシート【No.4】の読解(3)を行う。 ・15分程度で、黙読させる。  ・読解(2)および読解(1)の結果が書かれたことを確認し、魚名や魚字がないかなど、ワークシートを見直させる。  ・読んだ内容について、感想・意見を書く。	・ワークシート【No.4】の読解(4)を行う。 ・10分程度で、感想や自分の読解、考えたことなどを書かせる。  ・ワークシート【No.4】の読解(4)を行う。 ・10分程度で、感想や自分の読解、考えたことなどを書かせる。	・ワークシート【No.4】 ・ワークシート【No.3】でマーキングの手順については学習したことを実践させる。  ・この読解では、マーキングが箇所について発表させる必要はない。  ・読みかたが不明な箇所があるが、時間を限定して確認をおこなうと、無駄目になるだろう。  ・書いたものを再度見直す習慣を身につけさせたい。  ・時間的に余裕がない場合は、家庭での課題とする。
展開 (20)	・素朴な疑問について学ぶ。  ・感想・意見をもち、言葉でよめる技術について学ぶ。	・ワークシート pp.46～50 を参考にしながら、最初の作風について解説する。そして、全食がけの食文化について振り返る。  ・テキスト pp.50～52 を参考にしながら、感想・意見や考えの書き方について解説する。特に、以下の点について理解させる。 (1) 「感想」とは誰に何をいつかにかついたらよかったかなどと返へるものではないこと。	・ワークシート pp.46～50  ・テキスト pp.46～50  ・テキスト pp.50～52  ・テキスト pp.50～52 ・「感想」として何をどう書けばよいか分からない学生が多いと思われるので、その点について直に手紙を添えて解説する。	

## 「学習技術」の教材について 4

# ■ ワークシートの活用

- ・ 各回の授業は、ワークシートを中心に展開する。
- ・ ワークシートは**テストではない**。その時間の内容を表す**「あらすじ」**であり、スキルを身に付けるための**「しかけ」**である。
- ・ ながれ



## ■授業の実際

(第4章 「より深いリーディングのために」より)

- 使用する教材
  - テキスト「知へのステップ」(pp.43-53)
  - ワークシートNo.4「要約から感想・意見を書く」(1)(2)
- 授業の展開
  1. 黙読または音読、わからない語句のチェックなど
  2. キーワードの抜き出し
  3. マーキング
  4. 要約
  5. 感想・意見を書く



## ■最終課題

- 2,000字程度のレポート。
- 10のテーマから1つのテーマを選ぶ。  
(例: 公共の場所での喫煙は禁止すべきか)
- 「最終課題に向けてのワークシート」で、選択したテーマ番号とレポート提出までのスケジュールを確認させる。
- したがって、締め切りの1ヶ月前の授業で、最終課題の内容を発表する。
- ワードプロを使用し(手書きは不可)、書式設定なども指定する。
- 成績発表後には、アドバイザーを經由して返却する。

## ■ 最終課題の評価基準

「学習技術」受講者のみなさんへ  
「学習技術」最終課題評価について

最終課題のレポートは、以下のようなポイントで50点満点で評価しました。

<技術点>	
書式設定ができています (A4縦・40字×30行)	
1行目のレポートのタイトルがMSゴシック、14pt、中央揃えになっている	
2行目の学籍番号と氏名が、MS明朝、10.5pt、右揃えになっている	
注が1つ以上つけられている	
レポート末尾に参考文献(文献5冊以上、URL2つ以上)がつけられている	

<表記点>	
誤字・脱字がない	
文体(だ・である)の混用、話し言葉が用いられていない	
挿入に長い文(1文=40字程度が目安)が用いられていない	

<内容点>	
文字数が1,800~2,200字の範囲になっている	
序論・本論・結論の構成になっている	
ふさわしいタイトルがつけられている	
完成度(話題の絞り込み、事実と意見の区別、主張の明確さ)	

<提出点>	
事前にワークシートを提出していた	
レポートと共に完成したワークシートを提出している	

提出されたレポートの評価は 点です。

○担当者からのコメント○

※レポートの評価+毎回のワークシートの評価の合計で100点満点となります。

※採点結果は、返却するレポートに添付する。

23

## ■ 評価と評価基準

1. ワークシート =40%
2. 小課題 =10%
3. 最終課題 =50%

- 合計100%=100点となる。
- シラバスにも明記し、学生に事前に告知する。
- 評価方法と評価基準については全クラスで統一。

24

## ■再履修クラスの運用について

- 必修科目のため、必ず単位をとらなければならない。
- 新入生のレギュラークラスには混ぜない。
- レギュラークラスのシラバスをもとに、別シラバスを作る。
- 夏学期と秋学期集中に開講。
- 3コマ(2~4限) × 5日間
  - 今年度の夏学期は8/27(金)~9/2(木)
- 受講者数は每期10~20名前後。
- 実際に図書館で文献検索を行う。



## ■自己分析をする

- 事前調査と事後調査

**集中講義「学習技術」受講者 事前調査**

学籍番号  氏名

- 「学習技術」の履修は何回目ですか。(あてはまるものを○でかこんでください。  
1回目 ・ 2回目 ・ 3回目 ・ 4回目以上
- 今回の受講が2回目以上の履修になる人に質問します。  
①1回目の履修で単位が取得できなかった理由は何ですか? 簡単に述べてください。  
.....  
.....  
②今回の履修で努力しようと思っていることは何ですか? 簡単に述べてください。  
.....  
.....
- レポートと感想文の書き方を説明してください。  
.....  
.....
- レポートを提出するまでの手順が正しくなるように、下の記号群から作業内容を選び、( ) 内に記号で記入してください。  
1. テーマが与えられる → 2. ( ) → 3. ( ) → 4. ( ) →  
5. ( ) → 6. ( ) → 7. ( ) → 8. ( ) →  
9. ( ) → 10. ( ) → 11. 提出する

<記号群>  
 ア アウトラインを考える    イ 構成を考える    ウ 最終的な主張を定める  
 エ 材料を調べる (情報収集)    オ 材料を整理する    カ 執筆する (実際に書く)  
 キ 推敲する    ク スケジュールをたてる    ケ 話題を切り込む

- 以下におけるコンピュータの操作について、それぞれA~Dで自己評価し、該当する欄に○をつけてください。ただし、A~Dの評価は次のとおりです。  
 A : できる (他人にも説明できる)  
 B : おおよそできる (他人には説明できないが、自分では操作できる)  
 C : 言葉はわかるが、操作はできない  
 D : 言葉も聞いたことがないし、操作もできない

<Word>

操作内容	A	B	C	D
日本語入力				
フォントやフォントサイズの設定				
文脚挿入、末尾注のつけ方				
文字の検索・置換				
データ (文字列・表・グラフ) のコピーと貼り付け				
ヘッダーとフッターの編集				
印刷プレビュー				
指定されたページ設定 (文字数、行数など) への変更				

<ホームページ・Windows 基本操作>

操作内容	A	B	C	D
ブラウザを使ったHP(ホームページ)の閲覧				
検索エンジンを使ったHPの検索				
フォルダの作成				
指定されたフォルダへのファイルの新規保存				
ファイルの上書き保存				

## ■受講生たちの感想

- レポートの書き方がわかった。  
→従来はレポートの書き方はもちろんのこと、レポートがどのようなものであるのかも理解できないまま提出していた。
- 大学生としての学習への取り組み方がわかった。  
→自発的・能動的な態度が大切。タイムマネジメントも参考になった。
- 大学生としての勉強方法がわかった。  
→図書館は本を借りるだけのところではなく、他大学の図書館も活用できることがわかった。<sup>27</sup>

## ■「学習技術」の意義

### 学生にとって

- 高等学校と大学との接続
- 全クラスで等質の教育内容
- 専門科目に入るまでの準備期間

### 教員にとって

- 初年次の学生の実態がわかる
- FD効果もある

## ■まとめにかえて■

- 強力な推進力が必要。
- 積み重ねが大切。
- 様々な人の意見を聞くことが大事。
- 教材が完備されているだけではだめ。担当する教員が「おもしろい」と思って授業に取り組むことが最も大事。